宇部日報　2022年〈令和4年〉8月30日 火曜日

創刊110周年記念

誇れるふるさと 24地区リレー

〈vol.7〉

＜恩田① 特徴＞

由来は常盤湖築造、土木開発の原点

恩田地区は、宇部市そして県の空の玄関口となる山口宇部空港やJR宇部線の草江駅があり、主要幹線の国道190号も走るなど交通の便に優れている。空港ふれあい公園、恩田運動公園など市街地にしては公園が多く、買い物拠点も点在するなど、市内でも屈指の住みやすさを誇る。

空の玄関口・山口宇部空港

殿様の「御田」転化か

恩田の歴史は常盤湖の築造から始まる。それ以前は笹山、草江、野原などの地名が残る通り、未開発の荒れた台地が広がっていた。江戸時代初期、宇部領主の福原広俊が萩藩に築造の許可願いを出し、1698年に本土手が完成した。

2年後には用水路網も整備され、梶返、野中、則貞、草江、笹山などの約3平方キロを潤せるようになると、地区の人口は急速に増加していった。網の目のように張り巡らされた用水路の点検路は生活道として今も残る。地域の歴史に詳しい常盤湖本土手保存有志の会の上田純二さんは「宇部の土木開発の原点は恩田地区と言っても過言ではない」と話す。

「ふるさと恩田」によると、恩田の由来は常盤湖にちなむ説が有力。領主の命による築造で開田できたということから、殿様から頂いた田「御田」が転化した説、殿様の恩恵を忘れないように「恩田」となった説がある。また、築造前は湿地が多かったことから、湿地の意の陰地（おんぢ）が転化した、年貢を取られないように隠し持った隠田（おんだ）が転化したという説もあり、真偽ははっきりしない。

地区内に寺が無いことも特徴の一つ。上宇部、琴芝地区から移り住んだ人が多く、昔からある上宇部の教念寺、松月院などの門徒のまま移住したからではないかと推察される。

地区住民が住みやすさに挙げる理由の一つが、恩田運動公園、空港ふれあい公園の存在。子育て世代から高齢者まで幅広い層がウオーキングやジョギングで利用し、遊具を楽しんでいる。空港ふれあい公園には、来春にインクルーシブ大型遊具も設置される予定で、地域づくり協議会の真宅宣昭会長（64）は「県内外から多くの人が集まり、交流人口も増えるだろう」と期待する。

基本データ
- 面積　4.13平方キロ（17位）
- 世帯数6155世帯
- 人口1万2469人（3位）（男性6092人、女性6377人）
- 高齢化率32.66％
- 小学校児童数712人

※世帯数などは2022年4月1日現在